

木材価格市況標準相場

令和6年8月5日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	2
南洋材・中国材	1
北洋材・北欧材	1
(2) 値下げ品目	9
米材製品	6
合板	3

○今月の市況動向

7月の商況は、先月同様に荷動きは悪いとの報告が多く、プレカット工場でも受注も稼働も悪いとの発表であった。しかし、広葉樹材では、受注件数と販売数量は減らず予想以上に健闘したとの報告もあった。

(国産材) 荷動き不振が続いていた構造材は、回復が見られるとの報告。輸入材のコスト高が続いており、国産材への移行が更に進むと思われる。イベント関係や注文材は好調が続いている。

(輸入材) 米材製品では、現地の原木価格は高値のままだが、代替樹種が多いことから、6品目が値下がり品目となった。赤松の40×30は先月に続き値を上げたが、これ以上の値上げには警戒感が高くなっているとの報告。米松の梁材は、5M、6Mの入荷が無く、来春稼働の中国木材(株)鹿島新工場への期待もあった。

(合板) 国内針葉樹合板では、先月に続き全品値下げとなった。荷動きは低迷し、価格下落に歯止めが掛からず、流通は更なる値下げを警戒して当用買いを継続している。輸入合板でも国内針葉樹の値下がりムードに引きずられているとの報告であった。